

年 組 名前:

# 「最速」梅雨明け幻に

## 確定値 山梨 7月下旬に修正

気象庁は1日、今年の梅雨入り、明けの時期の確定値を発表した。速報値で明けを6月下旬とした九州南部と北部、四国、中国、近畿、東海、山梨を含む関東甲信の7地方をそれぞれ24〜28日間ずらし、7月下旬と大幅に修正した。北陸、東北部と北部は特定できないとした。多くの地方で観測史上最速とされていたが、記録ではなくなった。気象庁によると、一度に多くの地方が大幅に修正されるのは異例。現在の発表形式になった1997年以降、20日以上の修正はほとんどない。同庁は梅雨明けの速報の根拠とした6月下旬から7月初めの記録的な猛暑は「梅雨の中止みと言っている」と説明。

7月中旬から偏西風の南下に伴う上空の寒気の影響で大気の状態が不安定になり、梅雨が続いたと判断した。見直しの原因は「偏西風の蛇行が予想と違い、天気の不ずつきがこれほど長く続くとは思わなかった」としている。

気象庁によると、九州南部と北部、四国、中国、近畿、東海、関東甲信の7地方は速報値で梅雨の期間が観測史上最短とみられていたが、大幅に延びることになった。雨量は沖縄が平年と比べて214%に上り、51年の統計開始以降で最多。九州北部は68%、中国地方は77%で、あまり雨が降らなかつた。関東甲信の梅雨入り、梅雨明けの確定値は6月6日、7

月23日（それぞれ5日間程度の移行期間があるため、記載の日付はその中日を示す）。気象庁はまた、今夏（6〜8月）の平均気温が基準値のプラス0.91度となり、観測史上で2010年に次ぐ高さだったと発表。日本近海の平均海面水温も平年差プラス0.8度と、16年と並ぶ1位タイだった。

(2022年9月2日付  
山梨日日新聞 23面)

問1

気象庁が発表した、2022年の

山梨県梅雨明けの確定値は、速報値と比べ、

どれだけの差がありましたか。

問2

梅雨の期間中、各地の雨量は、平年と比べ、何パーセントでしたか。

・沖縄 ..... %      ・九州北部 ..... %      ・中国地方 ..... %

問3

山梨県の確定した梅雨入りと梅雨明けの、日付を教えてください。

・梅雨入り .....      ・梅雨明け .....